

環境触媒研究会

1. 研究会の目的

自動車等から排出される窒素酸化物，一酸化炭素，炭化水素，粒子状物質（PM）の浄化，揮発性有機物の除去，脱臭，フロン分解，水浄化，有害物質を発生しない反応プロセスなど，環境分野における触媒の役割はますます重要になってきている．本研究会は，このような社会的要請に対して，触媒科学およびプロセス工学の立場から貢献すべく，最新の情報を交換する場を提供することを目的としている．

2. 研究活動の概略，動向，展望

触媒討論会へのセッション参加が研究会活動の基本であり，2020年度は，第126回触媒討論会（2020年9月16～18日，オンライン開催）にてセッション参加を行った．コロナ禍の中，Zoomによるオンライン開催となったが発表件数は，一般講演29件（A1講演28件，A2講演1件），ポスター発表8件であり，例年と変わらず盛況であった．本研究会では産学連携の推進を重要視しているため，今後も環境事業を推し進める企業の触媒学会への入会を勧誘するとともに環境触媒セッションへの申し込みを促す予定である．第127回触媒討論会（2021年3月16～17日，千葉大学西千葉キャンパス）へのセッション参加も行うこととなっており，19件のポスター発表が予定されている．

当研究会では触媒討論会以外にも不定期なシンポジウムの開催および関係学会・シンポジウムへの共催を行っているが，今年度はコロナ禍のために関連する多くの国内行事が中止となった．次年度以降，状況の改善に伴い他研究会，他学会との継続的な交流を図る．国際活動としては第10回東アジア環境触媒ワークショップ（The 10th East Asia Joint Symposium on Environmental Catalysis and Eco-materials）の福岡開催に向けて中国，韓国の触媒関連研究者との交流を再開する予定である．

2020年度は触媒学会のホームページの刷新に伴い，環境触媒研究会のWebサイトを改訂した．FacebookなどのSNSも引き続き活用し，研究会の活動について広く社会に発信する予定である．

3. 世話人

代表：永長久寛（九州大学 総合理工学研究院，einaga.hisahiro.399@m.kyushu-u.ac.jp）

世話人：岩知道均一（三菱自動車），岩本正和（早大），江口浩一（京大），大塚浩文（大阪ガス），小倉 賢（東大），小渕 存（産総研），角田範義（元豊橋技科大），薩摩 篤（名大），清水研一（北大），瀬川浩一（元上智大），辰巳 敬（製品評価技術基盤機構），田畑研二（元宮崎大），難波哲哉（産総研），羽田政明（名工大），濱田秀昭（産総研），平田裕人（トヨタ自動車），細川三郎（京大），堀 正雄（ユミコア日本触媒），町田正人（熊大），村山 徹（首都大東京），御園生 誠（元東大），八尋秀典（愛媛大），山下弘巳（阪大）